

図画像資料を用いた近代景観の研究

研究キーワード



- ①歴史・伝統文化
〈近現代史〉
満洲経営、日中関係史、戦後の引き揚げに関する研究
- ②文化振興活動
 - ◆地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開
 - ◆近現代の図画像資料（古写真や絵葉書等）や音源を歴史研究だけでなく観光など地域振興に活用する

連携アピール



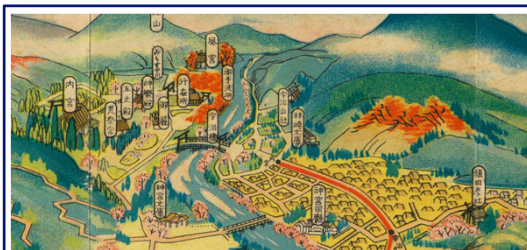
- 個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開したり、地域の博物館と連携して蓄音機コンサートを実施したりする活動を行っています。いずれの活動も歴史や神道を学ぶ学生たちと共に実施しており、「歴史資料を用いた展示を企画したい」、「地域の歴史を何かの形で発信したい」、「歴史や文化に関するイベントを行いたい」といった要望に対し、学生チームと共に企画から開催まで全般にわたる協力ができます。これまでに、皇學館大学附属図書館、橿原神宮宝物館、松阪市旧長谷川治郎兵衛家、中津川市ひとまちテラス、奈良県アンテナショップ（まほろば館）、千代田区立日比谷図書文化館特別研究室、奈良県天理市柳本町などで特別展、ミニ展示、ワークショップを行いました。
- 研究室では数千枚の戦前の絵葉書、数百点の戦前の観光ガイドなどを所蔵しており書籍や展覧会、自治体の印刷物などに資料を提供し活用を図っています。

本研究の概要

- ①学生の満洲派遣事業や戦前期の教育現場における満洲の教えられ方などを通して、一般国民が国策としての満洲経営をどう捉えていたのか、を分析しています。現在は、宗教団体による満洲開拓への参画について、思想的背景やそれぞれの団体がいかなる活動を行ったのかを分析しています。
- ②視覚資料や音源資料など多様な資料を活用して歴史を分析することが必要です。最近、明治～昭和のSPレコードに記録された音源（音楽・演説・ドラマ・実況など）を再生して、当時の人々が聴いていた「音」がどのような社会的背景によって生み出され、いかなる影響を与えたのかを研究しています。



蓄音機を用いた戦前のSPレコード再生



近代伊勢の観光案内より（大正時代）

研究者



長谷川 怜（はせがわ れい）
文学部国史学科 准教授

